③避難所運営における課題

＜１．運営組織に関するもの＞

１）避難所運営スタッフの固定化

避難所を開設・運営する要員が限られたメンバーで固定化されており、避難所運営が２４時間を超えるなど長期化する時の負担が大きすぎる。
各個人の負担が過多にならないよう、運営組織や業務分担の見直し、運営スタッフのローテーション化など実効性の高い運営マニュアルの改良が必要

２）各町内会からの支援要員確保

避難者が居住する町内からの運営要員がいない場合、個別の事情などがほとんど分からず確認も難しいため、必要な対応がとれない。町内会の役員が常駐できない場合でも、連絡要員など支援要員を配置することで円滑な支援ができる体制が必要

＜２．設備・資機材に関するもの＞

１）テレビの設置（早稲田集会所）　　※対策済み

避難所では情報源としてテレビが有効だが、集会所にはテレビがなく、リアルタイムな情報入手ができず苦労した。
避難所運営の途中からは小型のテレビが設置された。

２）防災備蓄倉庫が遠い場所に設置されている

早稲田集会所、早稲田公民館ともに防災備蓄倉庫がない（学区内には旧避難施設だった早稲田中学校、早稲田小学校に防災備蓄倉庫を設置）ため、避難者に毛布等を提供しようと思っても取りに行く必要がある。

＜３．要支援者への配慮＞

１）要支援者名簿の確実な活用

災害時要支援者名簿の情報がきちんと活用されず、十分な安否確認や避難支援などが出来なかった。名簿の対象者への支援の徹底ができる仕組みが必要

２）障がい者トイレの未対応（早稲田集会所）　　※対策済み

集会所のトイレが災害当時は障がい者対応になっておらず、車いす使用の避難者のトイレができずに困った。後日、改修して対応

３）福祉避難所の未活用

要介護の避難者がいたが、福祉避難所の存在を把握していなかったため、介護などに苦労した。福祉避難所への要請、引き継ぎが円滑に行えるよう、運営要員の学習、訓練が必要

＜４．運営資金の確保＞

１）避難所運営のための資金の確保

避難所を運営するうえで、自主防災連絡協議会がほとんど予算を持っていないため、軽微な物を調達するための資金が不足した。
様々な事態にすぐに対応できるよう、運営資金の確保が必要。

＜５．避難所に関する情報発信＞

１）早稲田集会所の避難所利用に関する情報発信の不足

避難しようと考えた人が、早稲田集会所には「自動車で行けない」「ペットを連れては行けない」など正しくない情報で避難されなかった事例が確認された。
また、集会所の場所が分からず避難できなった人もいたので、集会所への避難について正しい情報発信、場所の周知が必要

２）手ぶらで訪れる避難者への対応

非常持ち出し品や必要な物を持たずに避難所に来る避難者が、避難所で提供するものに不足があると不満を示す事例があった。地域住民へ非常持ち出し品を準備し、持参させるための周知が必要